

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年9月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870500810
事業所名	グループホームおてだま
(ユニット名)	紙ふうせん
記入者(管理者)	
氏名	岩井彰子
自己評価作成日	平成29年9月1日

一人一人に寄り添って その人らしく生き生きと 地域とのつながりを大切に	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会の委員のみなさんをグループホームでの昼食に参加してもらう。 グループホームでの普段の生活を感じてもらいグループホームへの理解を深めてもらった。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は商店街の一角に立地する複合施設の4階にあるため、職員は極力外出する機会を多く持ち、利用者が閉じこもることがないように支援している。また、利用者にとって食事は大きな楽しみであることを理解し、ユニットで共に調理し、共に食卓を囲むことを大切にしており、利用者一人ひとりの能力を見極め、発揮できるよう働きかけている。幅広い年齢層の職員が話し合いながら、利用者の自立した生活が実現できるよう取り組んでいる事業所である。
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	話を聞いたり、家族に意向を尋ねたりして希望意向の把握に努めている。	◎	/	○	利用者が何を望んでいるか、喜びを感じることをやしたいと思っていることは何かを念頭に置き、日々の関わりの中で気づくことができるよう努めている。気づいた事柄は「気づきメモ」や日誌に記録して申し送り、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の顔色や表情、行動で想像し検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時に家族と本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	気づきメモや日誌に記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	カンファレンスで検討し常に利用者の思いを考慮している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時に家族やケアマネから情報を収集している。	/	/	◎	入居時、家族が記入しやすいよう工夫した書式に記入してもらい、利用者の生活歴や人間関係、暮らしの様子を把握している。また、入居前利用していた介護事業所からの情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	毎日の生活の中で観察し職員間で話し合い現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	毎日のかかわりの中で把握できている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	職員間で常に話し合いを持ったり、カンファレンスで検討し把握するようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートの作成で日々の把握は出来ている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	職員や家族と話し合ったり、カンファレンスで検討している。	/	/	○	居室毎の担当者が中心となって情報を収集し、ケアカンファレンスで課題分析に努めている。病院受診時には主治医から生活上留意すべき事柄を聴取し、介護計画に反映させている。本人と家族の意向については、入居時の聞き取りや日頃の関わりの中から推測して記載されており、あまり変更されていない状況がある。今後、介護計画の見直し毎に、改めて意向を聞き取る機会を持ち、確認作業をすることで両者の思いをより深く汲み取っていくことに期待したい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	職員や家族と話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	カンファレンスで課題を明らかにしてケアの方針を決めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の思いを大切にしながらカンファレンスで話し合い反映させた内容になっている。	/	/	/	介護計画は簡潔にまとめられ、分かりやすい表現で記載されている。2週に1回開催されるカンファレンスで話し合いながら、その人らしい生活を実現でき、精神的安定や健康に配慮した介護計画になるよう留意している。生活課題に優先順位をつけ、3項目程度に重点化して生活目標やサービス内容を決めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人と話したり、家族や親族などの意見を尊重しながら作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	できるだけ今まで通りの生活を継続させながら過ごしてもらえるような内容になっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力や友人などの協力を盛り込んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日の記録はケアプランに基づいて記録し、共有している。	/	/	◎	介護計画は合理的かつ簡潔にまとめた介護記録と共に綴り、職員は常に介護計画を意識してケアを行い、実施状況を記録している。特別な出来事や利用者の言葉は記録用紙を追加して記録に残し、利用者をより深く理解することに役立っている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日ケアプランに基づいて記録し、確認している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者個別に、支援の内容を「記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ひとりひとりについて個別に記録している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	大きな変化がなければ6ヶ月に1回見直しを行っている。	/	/	◎	担当者を中心に毎月モニタリングを行って記録すると共に、1か月の生活の様子を要約している。職員は毎日、利用者の活動内容や役割を表に記載し、できていること、できなくなったことを分析して介護計画に反映させている。介護計画は状態の変化があった場合はその都度、ない場合は6か月毎に見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回は見直しをして確認し、記録をしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	心身の変化があったときは見直しを行い新たな計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ケースカンファレンスを定期的に行っている。緊急案件がある時は職員間で話し合いを持っている。	/	/	○	2週に1回開催するカンファレンスで介護計画の実施状況や評価、新たな課題について話し合っ検討を行うほか、日々の申し送り等で日常的に意見を出し合っている。会議当日、参加できない職員には、会議録を回覧して内容を確認し、一律のケアが提供できるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	常に活発な意見交換ができるように日ごろから努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	出来るだけ会議には均等に参加できるように日時を工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成し回覧したり、重要な事柄は再度申し送るようになっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	大切なことは申し送り簿に記入し、意見があれば検討している。	/	/	◎	日頃の気づきや伝達事項は日誌や申し送り簿に、外来受診時には薬変更等の内容を受診記録に記載して回覧し、確認のサインをするようにしており、情報が確実に伝わるよう徹底されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日々の申し送りは出勤時に必ず確認し緊急の時は電話で連絡している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来るだけ希望に沿うようにしている。	/	/	/	利用者の意向を丁寧に聞き取り、一人ひとりの生活ペースに合わせて意向に沿った支援ができるよう努めている。部屋に居たい時は自室で過ごしてもらい、外へ出たいという人には付き添って出かけている。また、飲み物や洋服等は複数の中から自分で選択できるようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	色々な場面で選択できる機会を作っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	希望や要求を探りながらそれを支援し納得できるような支援をしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースを優先している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	安心できるような言葉がけや、日常のこまごまとした言動に共感して会話をし、利用者が活き活きと過ごせるような雰囲気づくりをしている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	本人の表情や行動から出来るだけ心地よい状態で過ごしてもらえるように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	職員会やカンファレンスなど機会あるごとに学び言葉使いなどには特に気を付けている。	◎	◎	○	管理者は利用者の誇りやプライバシーを尊重するため、自分や自分の親に置き換えて考えるよう指導しており、接遇に留意している。呼称については利用者の希望を大切にしながら、過度な慣れ合いにならないよう配慮し、居室入室時には利用者の了解を得ている。また、個人情報の取り扱いについて学ぶ機会があり、適切に扱われている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	さりげない対応を心がけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	十分配慮し対応している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室する時はノックをするか、声掛けして許可を得ている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	カンファレンスや職員会で話し合い遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	日常の中で利用者に見えたり、昔ながらの習慣や生活役割など教えてもらう場を多く作っている。	/	/	/	現在利用者全員が女性で、昼食は皆で助け合いながら手伝っている。女性たちは自発的に助け合おうという意識が高く、特に調理は協力して作業することが多い。利用者の提案で料理を作ることもあり、最近ではプランターで育てたシソの実の佃煮を作って皆で味を楽しんでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いに助け合えるような機会を作っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	トラブル回避や仲の良い利用者同士に対する配慮は常に行っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルは事前に回避できるようにしたり、トラブルが発生したら速やかにさりげなく回避できるようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人から聞いたり、入所前の情報収集(ケース記録)、家族や友人などから情報を得ている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	ケース記録の中や本人、家族から聞いて把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	出来るだけ以前の関係を継続できるように支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来た家族、友人などには湯茶を提供したり、テーブル、椅子などを提供し、過ごしやすくする工夫をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	買い物や、地域のイベント、散歩など毎日出かけている	○	×	○	ビルの最上階に事業所があるため、閉じこもることがないよう極力外出する機会を作っている。職員は毎日利用者と共に昼食の食材を買いに商店街に出かけており、それが困難な利用者には屋上に出て散歩を楽しめるよう支援している。時折、商店街のうどん店や喫茶店に入って外食をすることも。また、毎月開催される産直市での買い物や、併設施設の福祉車両で季節の花見物、美術館や図書館等へ出かけることも利用者の楽しみになっている。家族の協力を得て墓参りをする利用者もいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の顔見知りの方が時に外出の支援がある。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車いすなどで散歩や買い物に参加している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	遠距離の支援は少ないが、お花見や紅葉狩りなど家族の方の協力を得ながら実施している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	カンファレンスや研修会で理解を深め出来るだけ症状を起こす原因を探り取り除くケアを行っている。	/	/	/	利用者の身体状況に応じて日中を活動的に過ごせるよう支援している。利用者一人ひとりの能力を判断して作業を依頼しており、その都度感謝の言葉を返している。その際待つことの重要性を職員に伝え意識づけをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	身体状況を常に細かく観察し、機能低下を防ぐように日常生活の中での色々な取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	「できること、できそうなこと」に関しては出来るだけ「待つ」姿勢を大切にできさりげなく支援している。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者一人一人の楽しみを把握し、色々な場面で活躍できるように考慮している。	/	/	/	日々の生活の中で役割を持って過ごせるよう支援しており、野菜の下ごしらえの他、花の水やり、金魚の餌やり、献立表書き等楽しみながら行っている。訪問時も折り紙や塗り絵、絵本や雑誌を広げて読んでいる様子が見られた。家族の提案で般若心経の道具を用意したところ、重度の利用者が写経を始めて驚かされたことがある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	認知症が重度になっても継続してきた生活役割などが、出来るだけ続けられるように内容を替えたりできることを探したりして、取り組んでいる。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事への参加、商店街での買い物などへの参加を支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者それぞれのおしゃれや身だしなみを把握している。	/	/	/	利用者は皆、清潔でおしゃれな服装をしている。朝の更衣時、自分で洋服を選ぶことができない利用者には、一緒に見て選ぶようになっている。厚着や、家族が新しい服を届けてくれても古い服ばかりを着ようとする利用者もいるが、さりげなく着替えてもらうよう配慮している。重度な人も毎朝着替えて共有スペースで過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人の好みを大切にそのように支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の気持ちを尊重して支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	その人らしい服装を楽しめるように支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	清潔な装いに注意し、さりげなくカバーしている。	○	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	本人の希望を聞いて、入所前の美容院を継続して利用できるようにしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	そのように支援している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	昼食と一緒に作り、一緒に食卓を囲み生活の質の向上に努めていて、食事の大切さを十分理解している。	/	/	/	朝食と夕食は複合施設の厨房で作られた料理が運ばれてくるが、昼食は各ユニットで調理している。職員は利用者と相談して献立を決め、毎日利用者と一緒に食材を買い、協力しながら調理して一緒に食べている。食器などは、自分のものを持ち込んだり、事業所のもので使いやすいものを利用している。嚥下が困難な利用者には「やわらか食」の形態にして食べやすいようにしている。誕生日には利用者の食べたい料理でお祝いし、おせち料理、花見弁当、節分、母の日、敬老の日等の際には特別に行事食が用意され、季節の料理を楽しむことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	献立づくりから後片づけまで利用者と一緒にやっている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	利用者と一緒に食事作りや後片付けをしながら、感謝の言葉、態度を常にあらわして、自信や達成感に繋げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	一人一人の好みや嫌いなもの、アレルギーなど把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節感のある献立、昔からの伝統食など利用者にとって懐かしいものを取り入れている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	常に健康状態を把握しながら、嚥下の機能も見極めながら、美しくおいしいような盛り付けを工夫している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個人の好みに合わせたり、使い慣れたものを持参してもらったりしている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に同じテーブルで食べながらさりげなく利用者のようすを観察し、食べ方の混乱や食べこぼしなどのサポートをさりげなく行っている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事中、BGMなどを流したり、その日の食事の内容について話したりして意欲をあげるように配慮している。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一日を通して水分摂取量と食事摂取量を記録しており、管理栄養士のアドバイスも参考にしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量や水分摂取量が少ない利用者には、好みのものを勧めたり、栄養補助食品を摂取してもらったりしている。頻りに摂取を促すこともあり、1日1000CCは水分確保している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	メニューは管理者がチェックしており、同一敷地内にある施設の栄養士にアドバイスを受けている。	/	/	◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日新鮮な材料を購入しており、手洗いの励行、ビニール手袋の使用など衛生管理には注意している。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後の口腔ケアは欠かさず行い、口腔ケアの重要性は理解している。	/	/	/	居室に洗面所があり、自分で率先して歯磨きをする利用者が多い。介助が必要な利用者には毎食後口腔ケアを行っている。口腔内に異常がみられる場合は、訪問歯科診療を受けることができる。今後、歯科医や歯科衛生士による定期的な口腔内チェックを行い、予防的対応ができることに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの介助をしながらよく観察し把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診療の歯科医から情報を得て、日常の口腔ケアに生かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	利用者の出来るところは声掛けにて支援し、難しそうな部分は介助しながら常に口腔内の状態に気を付けている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	歯科に受診したり、訪問診療を利用したりしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易におむつを使用しないで出来るだけ普通の下着を使用するようにしている。	/	/	/	24時間排泄チェック表に記載して排泄パターンを把握し、日中と夜間ともにトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみ紙パンツやポータブルトイレを使用する利用者もいるが、ほとんどの利用者が布パンツで過ごせるよう支援している。職員はカンファレンスで話し合い、利用者の状態に適した排泄用品を選択し、できる限りおむつを使用しない排泄介助を目指している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	毎日の申し送りやカンファレンスで便秘の弊害について理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	24時間の記録の中で細かく記録するようにして、パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	毎日の排泄の記録を参考にできるだけ快適にトイレで排泄できるように支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	常にカンファレンスで話し合ったり、職員間、訪問看護師とも相談して改善に向けた取り組みをしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄の記録を見ながら失敗をしないように早めの誘導、声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人や家族と話し合いながら検討し使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて適切と思われるものを使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ヨーグルトや食物繊維の多い食品を摂取したり、毎日散歩や体操を行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	出来るだけ利用者の希望に添えるように毎日入りたい利用者は毎日入浴をしているが、夜間浴は難しい。	◎	/	○	一般家庭浴槽に利用者の希望に応じて毎日でも入浴ができるよう支援している。浴槽の両側に移乗スペースが設けられており、安全に浴槽に移動できるよう工夫されている。現在浴槽につかれない利用者はなく、好みの温度で午後に入浴を楽しんでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人一人がゆっくり入浴できるように支援している。焦らすようなことはしないで十分待つて入浴してもらっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来るところは見守りながらや少しの介助で入浴できるようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	職員が交代したり、時間をずらして声掛けしたりして気持ちよく入浴できるように工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックをして健康状態を見極めながら入浴の可否をきめる。入浴後も水分補給を促しながら様子を観察している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	24時間の記録の中で入眠、覚醒時間の確認と1時間ごとの巡回で睡眠パターンを把握している。	/	/	/	職員は眠剤服用による弊害を理解しており、日中は活動的に過ごして、なるべく眠剤に頼らないよう支援している。入居前習慣的に眠剤を服用していたが、入居後は不用になった利用者もいる。不穏状態が続く場合は専門医に相談し、診断を受けて適切な医療につなげている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	不眠の原因を検討して、出来るだけ日中の活動性を上げ一日のリズムを整えるようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	出来るだけ薬に頼らず職員で検討しながら、医師にも相談し、総合的な支援をしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて休息を促したりしながら取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	電話や手紙を書くように促したり、はがきを用意したりして支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	はがきの表書きをして支援したり、電話の支援をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	返事を促したり、はがきや便せんなどを用意している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族には理解を求めて依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	お金を使うことを支援している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	職員と一緒に買い物に出かけている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	毎日行くスーパーでは協力を得られている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	家族と相談して出来るだけ希望を叶えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	家族および本人と話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的には預り金はないようにしているが、やむ負えない場合は出納帳などに記入し家族の同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	できるだけ本人や家族の要望を聞けるよう取り組んでいる。	◎	/	○	利用者の趣味活動を大切にしたいと考えており、希望に応じて美術館や図書館等外出している。以前、琴の演奏会に知人の協力を得て行くことができ、喜ばれたことがある。墓参り等は家族の協力を得て実現している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関には花を活けている。	◎	◎	○	事業所は大規模な複合施設の最上階にあるため、気軽に立ち寄れる環境ではないが、事業所の入り口を入ると、卓球台やソファのある共用空間があり、和風の落ち着いた造りになっている。各ユニットの玄関には季節の花が生けられていて好感が持てる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	花を活けたり、カレンダーやタペストリーをかけたしたりして心地よい雰囲気作りを心がけている。	◎	○	◎	月2回行われるフラワーアレンジ教室で生けた花々がいたる所に飾られ、掃除の行き届いた共用空間は清潔で気持ち良い。オープンキッチンと椅子席、畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。リビングや廊下の壁には、パッチワーク作品や利用者手作りの折り紙作品が額に入れられて飾られており、和みの空間になっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は毎日行い音やにおいなどにも注意している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾ったり、年中行事のものを置いたりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ソファや和室を活用している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	そのように工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入所の時には使い慣れたものの搬入を促し、その後も家族と相談しながら好みのものなどを用意してもらっている。	◎	/	◎	窓や入り口引戸に障子が使用されている居室には、エアコンと洗面台、ベッド、収納棚が備え付けられている。和室各部屋にトイレが設置されているユニットもある。毎朝利用者と一緒に掃除を行い清潔に保っている。位牌を置いたり、家族写真や手作り作品を飾ったりして居心地よくしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	出来るだけ自立できる様に文字で示したり、歩きやすいように工夫している。	/	/	/	事業所内はバリアフリーで、トイレや浴室には適宜手すりを設置して安全に配慮している。廊下や共用空間は、車いすやシルバーカーでの移動が容易にできるよう環境が整えられている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	利用者が混乱や失敗をしないよう工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	リビングや台所などに安全に考慮しながら馴染みのものや好みのものをさりげなく置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中ユニットの玄関、居室の窓は施錠はしていないが、建物全体に電子ロックがあり介助が困難である。	◎	-	○	職員は研修を受け、玄関に施錠することの弊害を理解している。各ユニットの入り口は日中開放され、自由に入出入りすることができる。ただ複合施設全体のエレベーターがオートロックになっており、使用には職員の操作が必要のため、利用者が安心して外出できるよう見守るなど、支援に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族には施錠しない事の理解をしてもらえるよう話している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	出来るだけ外出支援をしたり、散歩に行ったりと、自由に暮らしていけるように支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用者一人一人の情報を正確に把握しており、変化があれば迅速に対応している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	常に体調を観察しており、変化があれば看護師に伝達し、記録にも残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	変化があれば看護師に相談したり、かかりつけ医に受診したり出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人及び家族の希望を大切にしている。かかりつけ医との関係を築くよう受診介助をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は速やかに報告し、家族と相談し合意を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にはサマリーを作成し、注意事項を伝達している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時には頻りに面会をして情報を収集し、早期退院を実現している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期受診などで関係を作っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	身体状況に関する些細な変化でも、その都度訪問看護師に伝えて相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制を整えて24時間対応できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日ごろから毎日の身体状況を確認し記録をとっている。異変があれば看護師に相談し対応し早期発見・受診に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	常に薬の情報を得て、副作用、用法などについて理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬の危険性を理解してそれをふせぐために、職員2名で名前、服薬時間の確認など工夫をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	身体状況、精神状況に変化があれば、薬の影響を視野に入れて観察している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	新しい薬を服薬した時や、何か変化が見られるときは記録し、看護師や医師に情報提供している。				

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時に説明し、その後状態に変化があれば、本人、家族と話し合いながら、方向性を決めている。	/	/	/	入居時、利用者と家族に看取りへの意向を確認し、書面によるを交わしている。状態に変化がみられる場合は、その都度、医師や訪問看護ステーションとケアの方向性を決める話し合いを行っている。家族の協力を得ながら看取りを経験しており、重度の場合は併設の特別養護老人ホームに転所することもできるが、家族の希望等に対し臨機応変に対応している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化、終末期に関しては主治医とも話し合い検討している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	利用者の状態を見極めながら、職員とも話し合い、現在の職員の力量を見極めて検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	事あるごとに「できること」「出来ない事」の説明は行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	訪問看護、医師、職員、家族などと連携を取りながらの体制をとれるように検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	出来るだけ家族の話聞き、相談ののったり、アドバイスをしたりなどの支援をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	カンファレンスや学習会などことあるごとに学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを準備したり、感染症対策の物品をつねに用意している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染情報センターからの発生状況、対策などを職員に周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市のホームページなどから情報収集している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は感染症予防マニュアルに沿って手洗いうがいを行い、利用者、面会者にも手洗い、手指消毒などを行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族と利用者をいかに支援するかを常に話し合いながら、家族の気持ちに共感し、ともに支えられる関係を築いている。	/	/	/	管理者は、家族は利用者と共にあると考えており、協力を得ながら支援している。花見や餅つき等の行事や運営推進会議の案内をしたり、面会時は声をかけてコミュニケーションをとったりしている。遠方の家族には、その都度電話で知らせるよう努め、介護計画更新時には、計画書と共に手紙を添えて写真を同封するなど、暮らしぶりを伝えている。今回の家族アンケートにはホームだよりの発行や職員の異動報告を期待する声が寄せられており、今後それに応えるにはどのようにしたらよいか話し合う機会などを待つことを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族が面会に来られた時にはお茶を提供し、ゆったり過ごしてもらえるような雰囲気を作っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	外出行事や散歩など参加する機会を作り、呼びかけもしている。	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的到手紙を出したり、写真を送付したり、電話で報告したりして日常の様子を伝えている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	家族の意向、思いを理解したうえで利用者の現状を報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症に対する理解を深めてもらったり、一緒に行事に参加してもらったりしながら家族との良い関係を築けるように支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事や設備改修などは説明しているが、職員の異動、退職はすべての家族には報告できていない	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事などを通して呼びかけている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入所時に説明を行い、何か機会があるたびにリスクと支援の兼ね合いを話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	日ごろから出来るだけコミュニケーションをとるように心がけている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	説明し理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族に事前に退居についての説明を丁寧にしており、納得いく退居先を支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書で示し説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会などで説明し、理解を図っている。	/	◎	/	毎日買い物に行く商店や産直市の店員とは顔なじみの関係で、同一建物にある保育園や児童センターの児童とも交流の機会がある。商店街の衰退に伴い近隣住民が少なくなっており、地域住民とふれあう機会も減少傾向となっているため、地域との連携をより深めるような事業所としての取り組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩に行ったり、近所のスーパーや店に行って日ごろから地域の中で暮らす機会を持っている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	毎日行くスーパーや美容院など顔見知りになった地域の人には支援してもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	建物の構造上気軽に立ち寄ることはできない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外出時は挨拶したり話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	お話会やオカリナ演奏など、定期的に支援してもらえたり、友人が外出支援することもある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	美容院、喫茶店、スーパー、図書館など地域にある色々な資源を把握し、利用者の要求や思いに合わせて支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	地域のイベントや商店街の催しなどにも出かけていき、参加したり情報を得たりしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加している。	×	/	○	運営推進会議は利用者や家族、地区住民、市職員の参加を得て開催しており、利用者状況や活動報告のほか、ミニ介護講座を開催している。しかし、商店街の人口が減少している中で協力関係を構築していくことが次第に困難になっている状況にあり、独居高齢者が取り残されてきているという情報もある。関係機関と連携して交流の機会を持つことができないか等、働きかけを行い、また、利用者や職員に会議の様子がわかるよう、会議室などで開催するのではなく、ユニットごとに開催するなど透明性の確保等を検討して欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告、説明している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議での意見や提案を日ごろのケアプランにいかしたり、行事での取り組みにしたりしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	出席しやすい時間帯、日程に調整している。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	カンファレンスや職員会などで理念をことあるごとに説明し理解して日ごろのケアに生かしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	グループホームの玄関に理念を掲げ機会を見て伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	可能な限り色々な研修に参加するようにしている。	/	/	/	法人全体の研修会があり、勤務時間内に研修を受けられることができる。職員が交代で外部研修に参加することができるよう配慮されており、月1回開催の職員会で伝達講習を行い職員全員で共有するようにしている。新人職員はユニットリーダーが個別に相談に乗るほか、実務を通して教育を行っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	年間計画を立てて研修を行い、現場で学習できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めていると思われる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	愛媛県地域密着サービス協会への参加や市の組織にも参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいると思われる。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修会を行ったり、カンファレンスを行ったりして理解している。	/	/	/	カンファレンスや職員会で利用者の人格を傷つけないよう、言葉遣いには十分留意するよう話し合っている。また管理者は職員のストレスマネジメントが虐待防止につながると考えており、ストレス解消に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎日ケアについて意見を交わしたり、話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	カンファレンスや職員会にて話し合い改善するようにしている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日常的に声をかけたり、出来るだけ話を聞いてストレスの軽減に努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	学習会やカンファレンスで取り上げ理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	カンファレンスや日常のケアのなかで話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族に対しても身体拘束について説明し、理解を図っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	制度について学習している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族の相談にのったり、情報を提供している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	専門機関との連携をとっている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に講習を受けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	職員で検討し、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	センサーマットの活用や、嚥下状態の確認など検討し事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	手順に沿って対応する。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば速やかに対応し関係づくりを行う。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	苦情箱を設置したり、話し合ったりする機会を作っている。	/	/	○	利用者や家族は運営推進会議に参加して意見を伝えることができる。苦情があった場合は、職員で話し合って対応策を検討し、家族に返答している。また、事業所は幅広い年齢層の職員で構成され、職員は相談や意見、提案を出しやすい雰囲気であると感じており、ケアにいかせるよう努めている。管理者は職員と面談の機会を持ち、実績の評価や相談に対しての助言を行ったりしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情箱を設置したり、話し合ったりする機会を作っている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	公的な窓口の情報提供を相談があれば行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	時々聞くことがある。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員と話し合っ、いろいろな提案について検討している。	/	/	◎	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の目的を理解し年1回は全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	ユニット毎に職員が分担して自己評価に取り組み、ユニットリーダーがまとめ、評価結果を運営推進会議で報告している。職員は自己評価を通して、様々な角度から物事を考えられ、他のユニットの状況も知ることができたと感じている。また、日頃の実践に確信を持たたと実感する箇所もあり、自信につながっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	カンファレンスで課題を確認したり、学習の機会として取組んでレベルアップにつなげている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議などで取り組みを報告し、意見をもらっている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員会や運営推進会で成果を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	防災マニュアルを作成して回覧し、周知している。	/	/	/	年2回、日中と夜間を想定した訓練を法人全体で実施し、地震や津波災害の際には地区で最も安全な建物だと消防署から評価され、地域住民の避難場所となる可能性もあるという認識を持っている。備蓄品は法人全体で管理している。地区の避難訓練に参加し、利用者と一緒に小学校へ避難した経験があるが、混乱や歩行介助などの面で多く課題を感じた。今後も継続して地域との連携を深め、協力・支援体制を確保できる取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中想定した訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の避難訓練に参加している。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	自治会の避難訓練に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症を考える会で講演会を企画したり、実践報告を行った。	/	/	/	以前は地域の要請に応じて、認知症啓発の講演を行っていたが、最近はや要請が途絶えている。実践を通しての認知症理解の講演は説得力があり、そうした機会を持てるよう関係機関への働きかけや、また、地域包括支援センターから地域の実情を学ぶ機会を設けるなど、近隣住民との交流の機会が増えることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営推進会議などで相談支援を行っている。	/	-	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生の受け入れに協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括センターなどと連携をしたり、他事業所とイベントを行っている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年9月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870500810
事業所名	グループホームおてだま
(ユニット名)	風ぐるま
記入者(管理者)	
氏名	岩井彰子
自己評価作成日	平成29年 9月 1日

一人一人に寄り添って その人らしく生き生きと 地域とのつながりを大切に	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会の委員のみなさんをグループホームでの昼食に参加してもらう。 グループホームでの普段の生活を感じてもらいグループホームへの理解を深めてもらった。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は商店街の一角に立地する複合施設の4階にあるため、職員は極力外出する機会を多く持ち、利用者が閉じこもることがないように支援している。また、利用者にとって食事は大きな楽しみであることを理解し、ユニットで共に調理し、共に食卓を囲むことを大切にしており、利用者一人ひとりの能力を見極め、発揮できるよう働きかけている。幅広い年齢層の職員が話し合いながら、利用者の自立した生活が実現できるよう取り組んでいる事業所である。
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	「本人にとってどうなのか」を常に考えている。	◎	/	○	利用者が何を望んでいるか、喜びを感じることをやしたいと思っていることは何かを念頭に置き、日々の関わりの中で気づくことができるよう努めている。気づいた事柄は「気づきメモ」や日誌に記録して申し送り、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活動作の中でよく観察している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に家族と話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	申し送りや24時間シートを活用し記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人の思いを見落とさないように考えている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時に家族やケアマネから情報を収集している。	/	/	◎	入居時、家族が記入しやすいよう工夫した書式に記入してもらい、利用者の生活歴や人間関係、暮らしの様子を把握している。また、入居前利用していた介護事業所からの情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常生活を観察し把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	動作や表情などで把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	なぜか?は常に考えている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートの作成で日々の把握は出来ている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点が職員の視点にならないように注意している。	/	/	○	居室毎の担当者が中心となって情報を収集し、ケアカンファレンスで課題分析に努めている。病院受診時には主治医から生活上留意すべき事柄を聴取し、介護計画に反映させている。本人と家族の意向については、入居時の聞き取りや日頃の関わりの中から推測して記載されており、あまり変更されていない状況がある。今後、介護計画の見直し毎に、改めて意向を聞き取る機会を持ち、確認作業をすることで両者の思いをより深く汲み取っていくことに期待したい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	常に職員や家族と話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	計画・実行・評価・改善を実行することにより課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	生活を観察し、本人とのかかわりの中で探っている。	/	/	/	介護計画は簡潔にまとめられ、分かりやすい表現で記載されている。2週に1回開催されるカンファレンスで話し合いながら、その人らしい生活を実現でき、精神的安定や健康に配慮した介護計画になるよう留意している。生活課題に優先順位をつけ、3項目程度に重点化して生活目標やサービス内容を決めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	常に関係者家族の意見を反映している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活を継続させることを考えながら、ストレスを感じないように過ごせるような内容にしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力を仰いでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎日の記録はケアプランに基づいて行っている。	/	/	◎	介護計画は合理的かつ簡潔にまとめた介護記録と共に綴り、職員は常に介護計画を意識してケアを行い、実施状況を記録している。特別な出来事や利用者の言葉は記録用紙を追加して記録に残し、利用者をより深く理解することに役立っている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録を月末に1ヶ月の見直し、評価をしている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日誌に毎日記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送りや日誌などに記録している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画の期間内での見直しは出来ている。	/	/	◎	担当者を中心に毎月モニタリングを行って記録すると共に、1か月の生活の様子を要約している。職員は毎日、利用者の活動内容や役割を表に記載し、できていること、できなくなったことを分析して介護計画に反映させている。介護計画は状態の変化があった場合はその都度、ない場合は6か月毎に見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	現状確認は日々行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があったときは見直しを行い新たな計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度の会議は難しいこともあるが、職員間で常に話し合ったり、申し送りなどで連携をとったりしている。	/	/	○	2週に1回開催するカンファレンスで介護計画の実施状況や評価、新たな課題について話し合って検討を行うほか、日々の申し送り等で日常的に意見を出し合っている。会議当日、参加できない職員には、会議録を回覧して内容を確認し、一律のケアが提供できるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	意見を出しやすい雰囲気である。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	多くの職員が参加できるように検討している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録の回覧や重要なことは申し送り簿に記入し、直接申し送ることもある。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りなど書面で行っている。	/	/	◎	日頃の気づきや伝達事項は日誌や申し送り簿に、外来受診時には薬変更等の内容を受診記録に記載して回覧し、確認のサインをするようにしており、情報が確実に伝わるよう徹底されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日誌と申し送り簿は出勤時に必ず確認し緊急の時は電話で連絡している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来るだけ希望に沿うように支援している。	/	/	/	利用者の意向を丁寧に聞き取り、一人ひとりの生活ペースに合わせて意向に沿った支援ができるよう努めている。部屋に居たい時は自室で過ごしてもらい、外へ出たいという人には付き添って出かけている。また、飲み物や洋服等は複数の中から自分で選択できるようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	色々な場面で選択できる機会を作っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定ができるように支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人一人に合わせた支援を心がけている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	生き活きと過ごしてもらうために声掛けや雰囲気作りを考えている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	本人の表情や全身の様子を注意深く観察して意向を探っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	常に意識できるように言葉や態度を検討している。	◎	◎	○	管理者は利用者の誇りやプライバシーを尊重するため、自分や自分の親に置き換えて考えるよう指導しており、接遇に留意している。呼称については利用者の希望を大切にしながら、過度な慣れ合いにならないよう配慮し、居室入室時には利用者の了解を得ている。また、個人情報の取り扱いについて学ぶ機会があり、適切に扱われている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者の尊厳を大切にすることを常に念頭に置いてケアを行っている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	十分配慮して行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室する時はノックをするか、声掛けして許可を得ている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	日ごろから個人情報について話し合って遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	得意なことを教えてもらったりともに楽しめる関係づくりを行っている。	/	/	/	現在利用者全員が女性で、昼食は皆で助け合いながら手伝っている。女性たちは自発的に助け合おうという意識が高く、特に調理は協力して作業することが多い。利用者の提案で料理を作ることもあり、最近ではプランターで育てたシソの実の佃煮を作って皆で味を楽しんでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いに助け合えるような機会を作っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係に常に注意を払い「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルを事前に回避できるように配慮したり介入したりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人との会話や個人のケース記録で把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	ケース記録の中や本人、家族から聞いて把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染の美容室に行ったり、希望に沿うように柔軟に対応している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来た家族、友人などには湯茶、椅子を提供し過ごしやすくする工夫をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	施設の屋上や屋外、雨の日は施設内の散歩を毎日している。	○	×	○	ビルの最上階に事業所があるため、閉じこもることがないよう極力外出する機会を作っている。職員は毎日利用者と共に昼食の食材を買いに商店街に出かけており、それが困難な利用者には屋上に出て散歩を楽しめるよう支援している。時折、商店街のうどん店や喫茶店に入って外食をすることも。また、毎月開催される産直市での買い物や、併設施設の福祉車両で季節の花見物、美術館や図書館等へ出かけることも利用者の楽しみになっている。家族の協力を得て墓参りをする利用者もいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力は得られていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	車いすを使用し支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族の協力を得ながら支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	周辺症状の要因を理解し取り除くケアを行っている。	/	/	/	利用者の身体状況に応じて日中を活動的に過ごせるよう支援している。利用者一人ひとりの能力を判断して作業を依頼しており、その都度感謝の言葉を返している。その際待つことの重要性を職員に伝え意識づけをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	散歩や体操などの活動も取り入れ機能低下を防ぐように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	日常生活を観察し「できること」を探し、待つ姿勢を大切にしながら一緒に行動や支援をしている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	得意なことや出来ることをみつけて実践してもらっている。	/	/	/	日々の生活の中で役割を持って過ごせるよう支援しており、野菜の下ごしらえの他、花の水やり、金魚の餌やり、献立表書き等楽しみながら行っている。訪問時も折り紙や塗り絵、絵本や雑誌を広げて読んでいる様子が見られた。家族の提案で般若心経の道具を用意したところ、重度の利用者が写経を始めて驚かされたことがある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	出来ること、好きなことを探りながら出番を作るように取り組んでいる。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の行事への参加、商店街の店の利用など支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	一人一人の身だしなみ、おしゃれについて把握している。	/	/	/	利用者は皆、清潔でおしゃれな服装をしている。朝の更衣時、自分で洋服を選ぶことができない利用者には、一緒に見て選ぶようになっている。厚着や、家族が新しい服を届けてくれても古い服ばかりを着ようとする利用者もいるが、さりげなく着替えてもらうよう配慮している。重度な人も毎朝着替えて共有スペースで過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	その人の好みに応じた服装など支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	日常生活の中で観察しながら、本人の気持ちを考えながら支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節や行事に合わせたその人らしい服装を支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	清潔に気を付けてプライドを傷つけないよう声掛けしている。	○	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	馴染の美容院を利用できるようにしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを保てるように支援している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	昼食と一緒に作り、一緒に食卓を囲むことによって食事の大切さを十分理解している。	/	/	/	朝食と夕食は複合施設の厨房で作られた料理が運ばれてくるが、昼食は各ユニットで調理している。職員は利用者と相談して献立を決め、毎日利用者と一緒に食材を買い、協力しながら調理して一緒に食べている。食器などは、自分のものを持ち込んだり、事業所のもので使いやすいものを利用している。嚥下が困難な利用者には「やわらか食」の形態にして食べやすいようにしている。誕生日には利用者の食べたい料理でお祝いし、おせち料理、花見弁当、節分、母の日、敬老の日等の際には特別に行事食が用意され、季節の料理を楽しむことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立づくりから後片づけまで利用者と一緒にやっている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	利用者と一緒に食事作りや後片付けをしながら、感謝の言葉、態度を常にあらわして、自信や達成感に繋げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	一人一人の好みや嫌いなもの、アレルギーなど把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節感のある食材、昔なつかしい食べ物など取り入れている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	彩りよく盛り付けたり、料理にあった食器を選んでいる。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れたものを持参してもらったりしている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も同じテーブルで食事をしながら様子を見守り、さりげなくサポートを行っている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事中、BGMなどを流したり、その日の食事の話をして意欲をあげるよう声掛けしている。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一日を通して水分摂取量と食事摂取量を記録しており、管理栄養士のアドバイスも参考にしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量や水分摂取量が少ない利用者には、好みのものを勧めたり、栄養補助食品を摂取してもらったりしている。一日1000CCは水分摂取を促している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	メニューは管理者がチェックしており、同一敷地内にある施設の栄養士にアドバイスを受けている。	/	/	◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日新鮮な材料を購入しており、手洗いの励行、ビニール手袋の使用など衛生管理には注意している。	/	/	/			

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後の口腔ケアは毎食行い、口腔ケアの重要性は理解している。	/	/	/	居室に洗面所があり、自分で率先して歯磨きをする利用者が多い。介助が必要な利用者には毎食後口腔ケアを行っている。口腔内に異常がみられる場合は、訪問歯科診療を受けることができる。今後、歯科医や歯科衛生士による定期的な口腔内チェックを行い、予防的対応ができることに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの介助をしながらよく様子観察している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診療の歯科医や歯科衛生士から情報を得て、口腔ケアに生かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	利用者の出来るところはしてもらい、他は介助しながら様子観察している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	歯科に受診したり、訪問診療を利用したりしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易におむつを使用しないで出来るだけ普通の下着を使用するようにしている。	/	/	/	24時間排泄チェック表に記載して排泄パターンを把握し、日中と夜間ともにトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみ紙パンツやポータブルトイレを使用する利用者もいるが、ほとんどの利用者が布パンツで過ごせるよう支援している。職員はカンファレンスで話し合い、利用者の状態に適した排泄用品を選択し、できる限りおむつを使用しない排泄介助を目指している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	研修やカンファレンスで便秘の弊害について理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄記録に細かく記録し把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	毎日の排泄記録を検討しながら、トイレでの排泄を支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で話し合ったり、訪問看護師とも相談して改善できるように検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄の記録を見ながら早めの誘導、声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人や家族と話し合いながら検討し使用している。緊急におむつの使用が生じた場合、家族に連絡し了承をえている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて適切と思われるものを使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ヨーグルトや食物繊維の多い食事を心がけ、散歩したり、体操を毎日行えるように支援している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	出来るだけ利用者の希望に添えるようにしている。	◎	/	○	一般家庭浴槽に利用者の希望に応じて毎日でも入浴ができるよう支援している。浴槽の両側に移乗スペースが設けられており、安全に浴槽に移動できるよう工夫されている。現在浴槽につかれない利用者はなく、好みの温度で午後に入浴を楽しんでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人一人に合った入浴ができるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来るところは自分でしてもらい、職員の見守りの中安心して入浴できている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	職員が交代したり、時間をずらして声掛けしたりして気持ちよく入浴できるように工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックをして健康状態を見極めながら入浴の可否をきめる。入浴後も水分補給を促しながら様子を観察している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	入眠後1時間ごとに様子確認し記録している。	/	/	/	職員は眠剤服用による弊害を理解しており、日中は活動的に過ごして、なるべく眠剤に頼らないよう支援している。入居前習慣的に眠剤を服用していたが、入居後は不用になった利用者もいる。不穏状態が続く場合は専門医に相談し、診断を受けて適切な医療につなげている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	出来るだけ日中の活動性を上げ一日のリズムを整える工夫を行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	出来るだけ薬に頼らず職員で検討しながら、医師にも相談し、総合的な支援をしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて休息や昼寝を促している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話や手紙を書くように促し支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	はがきの表書きをして支援したり、電話の支援をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	その時に応じ支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には理解を求めて依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の大切さや、お金を使うことの意義を理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	お金を所持している利用者はいない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	毎日行くスーパーでは協力を得られている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族や本人の意見を聞いている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	家族および本人と話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納簿をつけて家族、本人の同意を得るようにしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ニーズによって対応し、出来るだけ実現している。	◎	/	○	利用者の趣味活動を大切にしたいと考えており、希望に応じて美術館や図書館等外出している。以前、琴の演奏会に知人の協力を得て行くことができ、喜ばれたことがある。墓参り等は家族の協力を得て実現している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関には花を活けている。	◎	◎	○	事業所は大規模な複合施設の最上階にあるため、気軽に立ち寄れる環境ではないが、事業所の入り口を入ると、卓球台やソファのある共用空間があり、和風の落ち着いた造りになっている。各ユニットの玄関には季節の花が生けられていて好感が持てる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節の行事の飾りつけや、常に花を飾って家庭的な雰囲気を大切にしている。	◎	○	◎	月2回行われるフラワーアレンジ教室で生けた花々がいたる所に飾られ、掃除の行き届いた共用空間は清潔で気持ち良い。オープンキッチンと椅子席、畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。リビングや廊下の壁には、パッチワーク作品や利用者手作りの折り紙作品が額に入れられて飾られており、和みの空間になっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	利用者と掃除は毎日行い、においなどにも注意している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾ったり、行事の飾りなどに気を配っている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	居室や和室を利用している。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	工夫している。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	馴染の物や写真を置いたりしている。	◎		◎	窓や入り口引戸に障子が使用されている居室には、エアコンと洗面台、ベッド、収納棚が備え付けられている。和室各部屋にトイレが設置されているユニットもある。毎朝利用者と一緒に掃除を行い清潔に保っている。位牌を置いたり、家族写真や手作り作品を飾ったりして居心地よくしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	目立つ文字で示したり、歩きやすいように工夫している。				事業所内はバリアフリーで、トイレや浴室には適宜手すりを設置して安全に配慮している。廊下や共用空間は、車いすやシルバーカーでの移動が容易にできるよう環境が整えられている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	危険を予測し利用者が混乱しないように工夫している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者の好みの物やなじみのものがさりげなく置いている(新聞、雑誌、など)					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	建物の構造上電子ロックがあり、解除は困難であるが、ユニットの出入り口、居室の窓は開放している。	◎	-	○	職員は研修を受け、玄関に施錠することの弊害を理解している。各ユニットの入り口は日中開放され、自由に出入りすることができる。ただ複合施設全体のエレベーターがオートロックになっており、使用には職員の操作が必要のため、利用者が安心して外出できるよう見守るなど、支援に努めている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族には施錠しない事の理解をしてもらえるよう話している。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外出要求には出来るだけ答えて外出したり、外気浴は頻繁に行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個別のケースや申し送りなどで把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者の身体状況を毎日記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異常があればすぐに訪問看護師に連絡し、受診に繋げている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族が希望する医療機関に受診している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望を大切に医療機関との関係を築いている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は家族に報告しその都度話し合っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	サマリーを提出し情報を提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	早期退院に向け関係者と調整している。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期受診などで関係を作っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者の些細な変化でも看護師に伝えている。訪看ノートをつくり引き継ぎもできている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制を整えて24時間対応できている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々の記録で常に健康状態を確認し、早期発見、治療に繋げている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤情報を確認し、理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員が2人で名前の確認、服薬後の確認を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日確認を行っている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	利用者の状態を観察記録し医師や看護師に情報提供している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時に説明し、その後状態に変化があれば、その都度話し合っている。				入居時、利用者と家族に看取りへの意向を確認し、書面によるを交わしている。状態に変化がみられる場合は、その都度、医師や訪問看護ステーションとケアの方向性を決める話し合いを行っている。家族の協力を得ながら看取りを経験しており、重度の場合は併設の特別養護老人ホームに転所することもできるが、家族の希望等に対し臨機応変に対応している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	色々な関係者と話し合い方針を共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	職員の力量を考慮してどこまでの支援ができるか見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	「できること」「できないこと」は十分な説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	訪問看護、医師、職員、家族などと連携を取りながらの体制をとれるように検討している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の思いや、不安を聞き、出来るだけ不安や葛藤を取り除けるように支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	学習会や研修などで定期的に取り組んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを準備、感染症対策グッズを用意している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染情報センターからの発生状況、対策などを職員に周知している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市のホームページや県の感染症情報などから情報収集している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いは常に行っており、来訪者にも手指消毒、マスクをうながしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の話を出るだけ聞きながらともに考えていく関係を築いている。	/	/	/	管理者は、家族は利用者と共にあると考えており、協力を得ながら支援している。花見や餅つき等の行事や運営推進会議の案内をしたり、面会時は声をかけてコミュニケーションをとったりしている。遠方の家族には、その都度電話で知らせるよう努め、介護計画更新時には、計画書と共に手紙を添えて写真を同封するなど、暮らしぶりを伝えている。今回の家族アンケートにはホームだよりの発行や職員の異動報告を期待する声が寄せられており、今後それに応えるにはどのようにしたらよいか話し合う機会などを待つことを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族が面会に来られた時にはお茶を提供し、ゆったり過ごせるように配慮している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	花見、花火大会、紅葉狩りなど色々な参加行事や散歩に誘うなどの機会を作っている。	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的到手紙を出したり、写真を送付したり、電話で報告したりして日常の様子を伝えている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	家族の知りたいことを考慮して報告をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症に対する理解を深めてもらったり、一緒に行事に参加してもらったりしながら家族との良い関係を築けるように支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事や設備改修などは説明しているが、職員の異動、退職はすべての家族には報告できていない	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事や運営推進会などを通して呼びかけている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入所時に説明を行い、リスクについては理解を求め、話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会に来た家族とは出来るだけコミュニケーションをとり、あまり来られていない家族には電話などで連絡、報告している。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	説明し理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族に事前に退居についての説明を丁寧にしており、納得いく退居先を支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	文書で示し説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会などで説明し、理解を図っている。	/	◎	/	毎日買い物に行く商店や産直市の店員とは顔なじみの関係で、同一建物にある保育園や児童センターの児童とも交流の機会がある。商店街の衰退に伴い近隣住民が少なくなっており、地域住民とふれあう機会も減少傾向となっているため、地域との連携をより深めるような事業所としての取り組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣を毎日散歩し、スーパーに行ったり、美容室を利用したりと地域での関係作りをしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	毎日行くスーパーや美容院など近隣地域の人には支援してもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	建物の構造上気軽に立ち寄ることはできない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外出時は挨拶したり話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	お話会やオカリナ演奏、児童クラブの訪問などと交流している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	美容院、喫茶店、スーパー、図書館利用などとの関係を継続している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	地域の産直市、喫茶店、美容室などでかけ関係を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加している。	×	/	○	運営推進会議は利用者や家族、地区住民、市職員の参加を得て開催しており、利用者状況や活動報告のほか、ミニ介護講座を開催している。しかし、商店街の人口が減少している中で協力関係を構築していくことが次第に困難になっている状況にあり、独居高齢者が取り残されてきているという情報もある。関係機関と連携して交流の機会を持つことができないか等、働きかけを行い、また、利用者や職員に会議の様子がわかるよう、会議室などで開催するのではなく、ユニットごとに開催するなど透明性の確保等を検討して欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告、説明している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議での意見や提案を日ごろのケアプランにいかしたり、行事での取り組みにしたりしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	都合の良い時間帯、日程を調整している。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	機会があるごとに共通認識を持てるように、実践できるように取り組んできた。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	グループホームの玄関に理念を掲げ機会を見て伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修参加を促し、法人内外の研修に参加するようにしている。	/	/	/	法人全体の研修会があり、勤務時間内に研修を受けられることができる。職員が交代で外部研修に参加することができるよう配慮されており、月1回開催の職員会で伝達講習を行い職員全員で共有するようにしている。新人職員はユニットリーダーが個別に相談に乗るほか、実務を通して教育を行っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	研修には積極的に参加を促し、研修報告をして、職員に周知しながら現場でのケアのスキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	できていると思われる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県地域密着サービス協会への参加や市の組織にも参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいると思われる。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修や、カンファレンス時に確認している。	/	/	/	カンファレンスや職員会で利用者の人格を傷つけないよう、言葉遣いには十分留意するよう話し合っている。また管理者は職員のストレスマネジメントが虐待防止につながると考えており、ストレス解消に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	カンファレンス時や朝の申し送りなどで検討している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会やカンファレンスなどで確認している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	利用者への影響がないように注意をはらっている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	学習会などで学習している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	現場の状況に合わせて点検し、話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族には日頃から身体拘束を行わないケアであることを理解してもらうように話している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	制度について理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族の相談にのったり、情報を提供している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	専門機関との連携をとっている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	救命救急の研修を定期的を受けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	記録や報告書を回覧し話し合い、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	歩行に合わせた靴、センサーマットや、食事の形態など検討し事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのように対応する。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば速やかに対応している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議に参加し意見を述べてもらったり、個別に要望を聞いている。	/	/	○	利用者や家族は運営推進会議に参加して意見を伝えることができる。苦情があった場合は、職員で話し合って対応策を検討し、家族に返答している。また、事業所は幅広い年齢層の職員で構成され、職員は相談や意見、提案を出しやすい雰囲気であると感じており、ケアにいかせるよう努めている。管理者は職員と面談の機会を持ち、実績の評価や相談に対しての助言を行ったりしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口の説明をしたり、運営推進会議で意見を求めたり個別に要望を聞いている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	適宜行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	時々聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常にそのように心がけている。	/	/	◎	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の目的を理解し年1回は全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	ユニット毎に職員が分担して自己評価に取り組み、ユニットリーダーがまとめ、評価結果を運営推進会議で報告している。職員は自己評価を通して、様々な角度から物事を考えられ、他のユニットの状況も知ることができたと感じている。また、日頃の実践に確信を持たたと実感する箇所もあり、自信につながっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	研修、学習の機会として取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議などで取り組みを報告し、意見をもらっている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員会や運営推進会で確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災マニュアルを作成している。	/	/	/	年2回、日中と夜間を想定した訓練を法人全体で実施し、地震や津波災害の際には地区で最も安全な建物だと消防署から評価され、地域住民の避難場所となる可能性もあるという認識を持っている。備蓄品は法人全体で管理している。地区の避難訓練に参加し、利用者と一緒に小学校へ避難した経験があるが、混乱や歩行介助などの面で多く課題を感じた。今後も継続して地域との連携を深め、協力・支援体制を確保できる取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中想定した訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の避難訓練に参加している。消防署には定期的に来てもらっている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	自治会の避難訓練に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症を考える会で講演会を企画したり、実践報告を行った。	/	/	/	以前は地域の要請に応じて、認知症啓発の講演を行っていたが、最近はや要請が途絶えている。実践を通しての認知症理解の講演は説得力があり、そうした機会を持てるよう関係機関への働きかけや、また、地域包括支援センターから地域の実情を学ぶ機会を設けるなど、近隣住民との交流の機会が増えることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営推進会議などで相談支援を行っている。	/	-	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	学生の受け入れに協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括センターなどと連携をしたり、新居浜認知症を考える会に入り活動している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年9月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870500810
事業所名	グループホームおてだま
(ユニット名)	竹とんぼ
記入者(管理者)	
氏名	岩井彰子
自己評価作成日	平成29年 9 月 1 日

<p>一人一人に寄り添って その人らしく生き生きと 地域とのつながりを大切に</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会の委員のみなさんをグループホームでの昼食に参加してもらう。 グループホームでの普段の生活を感じてもらいグループホームへの理解を深めてもらった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は商店街の一角に立地する複合施設の4階にあるため、職員は極力外出する機会を多く持ち、利用者が閉じこもることがないように支援している。また、利用者にとって食事は大きな楽しみであることを理解し、ユニットで共に調理し、共に食卓を囲むことを大切にしており、利用者一人ひとりの能力を見極め、発揮できるよう働きかけている。幅広い年齢層の職員が話し合いながら、利用者の自立した生活が実現できるよう取り組んでいる事業所である。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	普段の会話や家族に話を聞いて把握している。	◎	/	○	利用者が何を望んでいるか、喜びを感じることをやしたいと思っていることは何かを念頭に置き、日々の関わりの中で気づくことができるよう努めている。気づいた事柄は「気づきメモ」や日記に記録して申し送り、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の気持ちを常に考えて話し合い検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に家族と話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	ケースカンファレンスで検討したりや24時間シートを活用し記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で話し合い、決めつけないように注意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時に家族やケアマネから情報を収集している。	/	/	◎	入居時、家族が記入しやすいよう工夫した書式に記入してもらい、利用者の生活歴や人間関係、暮らしの様子を把握している。また、入居前利用していた介護事業所からの情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活を観察し把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	動作や表情などで把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	なぜか?は常に考えている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートの作成で日々の把握は出来ている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点を常に考えて検討している。	/	/	○	居室毎の担当者が中心となって情報を収集し、ケアカンファレンスで課題分析に努めている。病院受診時には主治医から生活上留意すべき事柄を聴取し、介護計画に反映させている。本人と家族の意向については、入居時の聞き取りや日頃の関わりの中から推測して記載されており、あまり変更されていない状況がある。今後、介護計画の見直し毎に、改めて意向を聞き取る機会を持ち、確認作業をすることで両者の思いをより深く汲み取っていくことに期待したい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	常に本人、職員や家族と話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスなどで課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	生活を観察し、本人の思いをくみ上げながらの計画になっている。	/	/	/	介護計画は簡潔にまとめられ、分かりやすい表現で記載されている。2週に1回開催されるカンファレンスで話し合いながら、その人らしい生活を実現でき、精神的安定や健康に配慮した介護計画になるよう留意している。生活課題に優先順位をつけ、3項目程度に重点化して生活目標やサービス内容を決めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	常に本人、関係者家族の意見を反映している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来るだけ継続して今まで通りの生活が出来るようなプランを考えている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力は得られている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎日ケアプランを見ながら記録をとっている。	/	/	◎	介護計画は合理的かつ簡潔にまとめた介護記録と共に綴り、職員は常に介護計画を意識してケアを行い、実施状況を記録している。特別な出来事や利用者の言葉は記録用紙を追加して記録に残し、利用者をより深く理解することに役立っている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランに沿った実践の記録を毎日取って日々の支援に繋げている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	24時間シートに毎日記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送りや日誌に記録している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画の期間内での見直しは出来ている。	/	/	◎	担当者を中心に毎月モニタリングを行って記録すると共に、1か月の生活の様子を要約している。職員は毎日、利用者の活動内容や役割を表に記載し、できていること、できなくなったことを分析して介護計画に反映させている。介護計画は状態の変化があった場合はその都度、ない場合は6か月毎に見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月末に現状確認を行い記録している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があったときはその都度見直しを行い新たな計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急の会議は難しいこともあるが、職員間で常に話し合ったり、申し送りなどで連携をとったりしている。	/	/	○	2週に1回開催するカンファレンスで介護計画の実施状況や評価、新たな課題について話し合って検討を行うほか、日々の申し送り等で日常的に意見を出し合っている。会議当日、参加できない職員には、会議録を回覧して内容を確認し、一律のケアが提供できるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	意見を出しやすい雰囲気や活発な意見交換が出来ている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	多くの職員が参加できるように時間や場所を決めている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	申し送りや議事録の回覧などを活用している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りなどで確認している。	/	/	◎	日頃の気づきや伝達事項は日誌や申し送り簿に、外来受診時には薬変更等の内容を受診記録に記載して回覧し、確認のサインをするようにしており、情報が確実に伝わるよう徹底されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日誌と申し送り簿は出勤時に必ず確認し緊急の時は電話で連絡している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来るだけ希望を叶えるように支援している。	/	/	/	利用者の意向を丁寧に聞き取り、一人ひとりの生活ペースに合わせて意向に沿った支援ができるよう努めている。部屋に居たい時は自室で過ごしてもらい、外へ出たいという人には付き添って出かけている。また、飲み物や洋服等は複数の中から自分で選択できるようにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できる機会を出来るだけ作っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定できる機会を出来るだけ作っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人一人に合わせた支援を心がけている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	生き活きた感情をひきだせるような言葉かけを考えて対応している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や態度から本人の思いを考えて以降に沿うように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権意識を持ちながら尊厳を大切にされたケアとは何かを常に考えて対応している。	◎	◎	○	管理者は利用者の誇りやプライバシーを尊重するため、自分や自分の親に置き換えて考えるよう指導しており、接遇に留意している。呼称については利用者の希望を大切にしながら、過度な慣れ合いにならないよう配慮し、居室入室時には利用者の了解を得ている。また、個人情報の取り扱いについて学ぶ機会があり、適切に扱われている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者が不快な思いをしないように、自然に過ごせるようにさりげない支援を心がけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	ドアをしめたり、カーテンを利用したりしてプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室する時はノックをするか声掛けして確認している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報について学習したり、話し合ったりして理解し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	得意なことを教えてもらったりともに楽しめる関係づくりを行っている。	/	/	/	現在利用者全員が女性で、昼食は皆で助け合いながら手伝っている。女性たちは自発的に助け合おうという意識が高く、特に調理は協力して作業することが多い。利用者の提案で料理を作ることもあり、最近ではプランターで育てたシソの実の佃煮を作って皆で味を楽しんでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	助け合えるような機会を作っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者間のトラブルはできるだけ未然に防ぐように介入したり、仲の良い利用者同士は座る位置など配慮したりしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルを回避できるように配慮したり介入したりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人との会話やケース記録、家族との話などで把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ケース記録の中や本人、家族から聞いて把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染の美容室に行ったり、喫茶店やスーパー・よく行っていたところを利用してそのように対応している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会者には湯茶、椅子、テーブルなどを提供し過ごしやすくする工夫をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	毎日戸外や施設の屋上、などの散歩には行っている。出来るだけ行きたいところにいけるように支援している。	○	×	○	ビルの最上階に事業所があるため、閉じこもることがないよう極力外出する機会を作っている。職員は毎日利用者と共に昼食の食材を買いに商店街に出かけており、それが困難な利用者には屋上に出て散歩を楽しめるよう支援している。時折、商店街のうどん店や喫茶店に入って外食をすることも。また、毎月開催される産直市での買い物や、併設施設の福祉車両で季節の花見物、美術館や図書館等へ出かけることも利用者の楽しみになっている。家族の協力を得て墓参りをする利用者もいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力は得られていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車いすを使用し支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族や友人の協力を得ながら支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症への理解については常に学習している。一人一人に対しての分析や対応を検討している。	/	/	/	利用者の身体状況に応じて日中を活動的に過ごせるよう支援している。利用者一人ひとりの能力を判断して作業を依頼しており、その都度感謝の言葉を返している。その際待つことの重要性を職員に伝え意識づけをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の身体状況の変化を常に観察しながら、機能の維持向上にむけたケアを提供している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	待つことを大切にしながら、出来ない事はさりげなくフォローしている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者個々の楽しみを把握しており、活躍できるような場面を作っている。	/	/	/	日々の生活の中で役割を持って過ごせるよう支援しており、野菜の下ごしらえの他、花の水やり、金魚の餌やり、献立表書き等楽しみながら行っている。訪問時も折り紙や塗り絵、絵本や雑誌を広げて読んでいる様子が見られた。家族の提案で般若心経の道具を用意したところ、重度の利用者が写経を始めて驚かされたことがある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者一人一人が出来ること、好きなことを探りながら出番を作るよう取り組んでいる。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	近所の催しものに行ったりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者一人一人の身だしなみ、おしゃれについて把握している。				利用者は皆、清潔でおしゃれな服装をしている。朝の更衣時、自分で洋服を選ぶことができない利用者には、一緒に見て選ぶようになっている。厚着や、家族が新しい服を届けてくれても古い服ばかりを着ようとする利用者もいるが、さりげなく着替えてもらうよう配慮している。重度な人も毎朝着替えて共有スペースで過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	その人の好みに応じた服装など支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の気持ちを考えながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節や行事に合わせた服装や外出時のおしゃれなどその人に合った支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	清潔に気を付けてプライドを傷つけないよう声掛けしている。	○	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	馴染の美容院を利用できるようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを保てるようおしゃれにも気を遣いながら支援している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	料理の献立づくりから片付けまでのプロセスを大切にしながら支援を行っている。				朝食と夕食は複合施設の厨房で作られた料理が運ばれてくるが、昼食は各ユニットで調理している。職員は利用者と相談して献立を決め、毎日利用者と一緒に食材を買い、協力しながら調理して一緒に食べている。食器などは、自分のものを持ち込んだり、事業所のもので使いやすいものを利用している。嚥下が困難な利用者には「やわらか食」の形態にして食べやすいようにしている。誕生日には利用者の食べたい料理でお祝いし、おせち料理、花見弁当、節分、母の日、敬老の日等の際には特別に行事食が用意され、季節の料理を楽しむことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立づくりから後片づけまで利用者と一緒にやっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	利用者と一緒に食事作りや後片付けをしながら、利用者の活躍場面を作ったり、感謝を表したりと自信、達成感に繋げている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	一人一人の好みや嫌いなもの、アレルギーなど把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	伝統食や、昔なつかしい食べ物、旬の季節の食材など取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人一人に合った調理法を考えており、盛り付けの工夫やし食器を選んだりして対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れたものを持参してもらったり、使いやすいものを用意したりしている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	同じテーブルで食事をしながら様子を見守り、さりげなくサポートを行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	BGMをかけたり、言葉がけなどして雰囲気づくりを大切にしている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	24時間シートに毎日記録している。記録し確認している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	好みの飲み物や食べ物を少しずつ頻回に摂取をうながすなどして取り組んでいる。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	管理者がチェックし、時に施設の栄養士のアドバイスを受けている。			◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日新鮮な材料を購入しており、手洗いの励行、ビニール手袋の使用など衛生管理には注意している。						

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	十分理解している。	/	/	/	居室に洗面所があり、自分で率先して歯磨きをする利用者が多い。介助が必要な利用者には毎食後口腔ケアを行っている。口腔内に異常がみられる場合は、訪問歯科診療を受けることができる。今後、歯科医や歯科衛生士による定期的な口腔内チェックを行い、予防的対応ができることに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自立している利用者の確認は出来ていない時もある。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診療の歯科医や歯科衛生士からアドバイスをもらい支援に生かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分でできることは手入れをしてもらいながら支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口の汚れや口臭には気を付けており清潔を保つために歯磨き等を支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	家族と話し合い訪問歯科診療を利用したり、歯科医に行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易に紙パンツやパットを使わずに自立出来るように支援している。	/	/	/	24時間排泄チェック表に記載して排泄パターンを把握し、日中と夜間ともにトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみ紙パンツやポータブルトイレを使用する利用者もいるが、ほとんどの利用者が布パンツで過ごせるよう支援している。職員はカンファレンスで話し合い、利用者の状態に適した排泄用品を選択し、できる限りおむつを使用しない排泄介助を目指している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	カンファレンスや研修などで学習し理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	24時間シートに記録し把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	出来るだけトイレで排泄できるようにしている。常にカンファレンスや話し合いでおむつの使用を見直したり検討したりしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で話し合ったりケースカンファレンスで改善できる様に検討し、支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	24時間シートで状態を把握しながら失敗を少なくするような対応をしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人や家族の意見を考慮しながら対応している。緊急時には家族の承認を得ておむつを使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	状態に合わせて使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食べ物(ヨーグルト、食物繊維等)の摂取や運動は毎日出来るよう心掛けている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	夜間は難しいが、午後から利用者個々の希望に添えるように支援している。	◎	/	○	一般家庭浴槽に利用者の希望に応じて毎日でも入浴ができるよう支援している。浴槽の両側に移乗スペースが設けられており、安全に浴槽に移動できるよう工夫されている。現在浴槽につかれない利用者はなく、好みの温度で午後に入浴を楽しんでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人一人がゆったり入浴ができるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で出来ることはしてもらいながら見守り、介助の中安心して入浴してもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	時間をずらして声掛けしたり、職員が変わったりして促している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックをし、状態をみながら判断している。入浴後は水分補給を促し、ゆっくりやすみながら過ごしてもらい状態を確認している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	24時間シートにて把握している。	/	/	/	職員は眠剤服用による弊害を理解しており、日中は活動的に過ごして、なるべく眠剤に頼らないよう支援している。入居前習慣的に眠剤を服用していたが、入居後は不用になった利用者もいる。不穏状態が続く場合は専門医に相談し、診断を受けて適切な医療につなげている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動性をあげて散歩、運動し午後からはゆったりと過ごしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	安易に薬には頼らず状態を観察し、活動内容などを検討している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々に合わせて休息を促している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望に添っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	はがきの表書きをしている。電話をかけたい利用者には支援している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	他の人に聞かれないように配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	その時に応じ支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族にはお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	十分理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	現在お金を所持している利用者はいない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	よく利用するスーパーでは協力を得られていた。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族や本人の意見を聞いている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	家族および本人と話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金はなるべくしないようにしているが、やむ負えない時は出納簿を付けて家族に確認をもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	できるだけそのように対応している。	◎	/	○	利用者の趣味活動を大切にしたいと考えており、希望に応じて美術館や図書館等外出している。以前、琴の演奏会に知人の協力を得て行くことができ、喜ばれたことがある。墓参り等は家族の協力を得て実現している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関には花を飾り日中は開けている。	◎	◎	○	事業所は大規模な複合施設の最上階にあるため、気軽に立ち寄れる環境ではないが、事業所の入り口を入ると、卓球台やソファのある共用空間があり、和風の落ち着いた造りになっている。各ユニットの玄関には季節の花が生けられていて好感が持てる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	年中行事の飾りつけをしたり、花をいけたりと家庭的な雰囲気を大切にしている。	◎	○	◎	月2回行われるフラワーアレンジ教室で生けた花々がいたる所に飾られ、掃除の行き届いた共用空間は清潔で気持ち良い。オープンキッチンと椅子席、畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。リビングや廊下の壁には、パッチワーク作品や利用者手作りの折り紙作品が額に入れられて飾られており、和みの空間になっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除機をかけたりモップで拭いたり、臭いには気を配っている。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活館や季節感を大切にしており季節の花や小物を配置したりその話題に注意を向けたりしている。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	仲の良い利用者は席を隣にしたり、和室を利用したりしている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	ドアを開けたりカーテンを利用したりしている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたものなどを持参してもらったり、好みのものを置いたりしている。	◎	/	◎	窓や入り口引戸に障子が使用されている居室には、エアコンと洗面台、ベッド、収納棚が備え付けられている。和室各部屋にトイレが設置されているユニットもある。毎朝利用者と一緒に掃除を行い清潔に保っている。位牌を置いたり、家族写真や手作り作品を飾ったりして居心地よくしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	一人一人の出来ない事がつまづきにならないように部屋の名前を大きく書いたり、手すりを使用したりしている。	/	/	/	◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	混乱を招いたり、不適切なものはおかず、利用者のミスを最低限にするようにしている。	/	/	/	事業所内はバリアフリーで、トイレや浴室には適宜手すりを設置して安全に配慮している。廊下や共用空間は、車いすやシルバーカーでの移動が容易にできるよう環境が整えられている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者の好みの物やなじみのものをさりげなく置いている(新聞、雑誌、ほうき、急須など)	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	建物の構造上電子ロックがあり、解除は困難であるが、ユニットの出入り口、居室の窓は開放している。鍵をかけることの弊害は理解している。	◎	-	○		職員は研修を受け、玄関に施錠することの弊害を理解している。各ユニットの入り口は日中開放され、自由に出入りすることができる。ただ複合施設全体のエレベーターがオートロックになっており、使用には職員の操作が必要のため、利用者が安心して外出できるよう見守るなど、支援に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族にはユニットの入り口、居室の窓など施錠しない事の理解をしてもらえるよう話している。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中はユニットの玄関は開放している。外出支援は毎日行っている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	ケース記録や24時間シート、申し送りなどで把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者の身体状況を24時間シートや日誌に記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	変化があればすぐ訪問看護師に連絡し、受診に繋げている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族が希望する医療機関を受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望を大切に医療機関との関係を築いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診記録を作成し、家族とも受診結果を共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	サマリーを提出し情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	できるだけ早期退院できる様関係者と調整している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期受診などで関係を作っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者に対しての気づきや情報は看護師に伝えている。訪看ノートをつくり引き継ぎもできている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制を整えて24時間対応できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々利用者の観察を行い、常に健康状態を確認し、早期発見、治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤情報を確認し、理解している。薬の変更があった場合にも確実に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	必ず職員2人で名前の確認、服薬後の確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日利用者の状態を見ながら確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	利用者の状態を観察記録し医師や看護師に情報提供している。特に服薬の内容に変更があった場合は注意している。				

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時に説明し、その後状態に変化があれば、その都度話し合っている。	/	/	/	入居時、利用者と家族に看取りへの意向を確認し、書面によるを交わしている。状態に変化がみられる場合は、その都度、医師や訪問看護ステーションとケアの方向性を決める話し合いを行っている。家族の協力を得ながら看取りを経験しており、重度の場合は併設の特別養護老人ホームに転所することもできるが、家族の希望等に対し臨機応変に対応している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	職員同士、医者、看護師など色々な関係者と話し合い方針を共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	現状ではどこまでの支援ができるか見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	十分な説明を行っており理解を得ていると思われる。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	訪問看護、医師、家族などと連携を取りながら体制をとれるように検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	色々な機会に家族の思いや、不安を聞き、不安や葛藤を取り除けるように支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	学習会を定期的に開催し取り組んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症マニュアルを準備、感染症対策グッズを用意している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染情報センターからの発生状況、対策などを職員に周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市のホームページや県の感染症情報などの情報を参考にしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いは常に行っており、来訪者にも手指消毒、マスクを勧めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	機会あるごとに家族の話を聞きながらともに考えていく関係を築いている。	/	/	/	管理者は、家族は利用者と共にあると考えており、協力を得ながら支援している。花見や餅つき等の行事や運営推進会議の案内をしたり、面会時は声をかけてコミュニケーションをとったりしている。遠方の家族には、その都度電話で知らせるよう努め、介護計画更新時には、計画書と共に手紙を添えて写真を同封するなど、暮らしぶりを伝えている。今回の家族アンケートにはホームだよりの発行や職員の異動報告を期待する声が寄せられており、今後それに応えるにはどのようにしたらよいか話し合う機会などを待つことを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族の面会時には湯茶を提供し、心地よく過ごせるように配慮している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	参加行事(花見、アジサイ見学、紅葉狩り、花火大会など)や散歩と一緒にする機会を作っている。	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的到手紙を出して写真を一緒に送付したり、電話で報告したりして日常の様子を伝えている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	家族とコミュニケーションをとりながら知りたいことの具体的内容伝えて報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症という病気の説明をして理解を促したり、一緒に行事に参加してもらい家族との良い関係を築けるように支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事や設備などは説明しているが、職員の異動、退職はすべての家族には報告できていない	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事や運営推進会などを通して呼びかけている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入所時にリスク説明を行い、理解を求め、話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会に来た家族と出来るだけ話し合ったり、来られていない家族には電話などで連絡、報告している。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	説明し理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時家族に事前に退居についての説明をしており、納得いく退居先を支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	文書で示し説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会などで説明している。	/	◎	/	毎日買い物に行く商店や産直市の店員とは顔なじみの関係で、同一建物にある保育園や児童センターの児童とも交流の機会がある。商店街の衰退に伴い近隣住民が少なくなっており、地域住民とふれあう機会も減少傾向となっているため、地域との連携をより深めるような事業所としての取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣スーパーに買い物に行ったり、美容室に行ったり、散歩をしながらコミュニケーションを図ったりしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	毎日行くスーパーや美容院など近隣地域の人には支援してもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	建物の構造上気軽には立ち寄ることは難しい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外出時は挨拶したり、時に会話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	お話会、オカリナ演奏、児童クラブの訪問などと交流がある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	近隣のスーパーへ買い物に行ったり図書館を利用したり、美容室や喫茶店などを利用し楽しめている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	近隣の産直市、喫茶店、美容室などを利用し関係を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加している。	×	/	○	運営推進会議は利用者や家族、地区住民、市職員の参加を得て開催しており、利用者状況や活動報告のほか、ミニ介護講座を開催している。しかし、商店街の人口が減少している中で協力関係を構築していくことが次第に困難になっている状況にあり、独居高齢者が取り残されてきているという情報もある。関係機関と連携して交流の機会を持つことができないか等、働きかけを行い、また、利用者や職員に会議の様子がわかるよう、会議室などで開催するのではなく、ユニットごとに開催するなど透明性の確保等を検討して欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告、説明している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進委員からの提案や意見はできるだけ現場のケアに生かし、その成果を報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	出席しやすい日程、時間帯を選んでいる。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を常に意識するようにことあるごとに会議や職員会などで伝えて共通認識を持てるようにし、日々のケアも理念に基づいたものになっている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	グループホームの玄関に理念を掲げ伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修参加を促し、法人内外の研修に参加できている。	/	/	/	法人全体の研修会があり、勤務時間内に研修を受けられることができる。職員が交代で外部研修に参加することができるよう配慮されており、月1回開催の職員会で伝達講習を行い職員全員で共有するようにしている。新人職員はユニットリーダーが個別に相談に乗るほか、実務を通して教育を行っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	研修にはできるだけ参加できるようにしている。現場での教育、学習を大切にして介護の質を上げるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	できていると思われる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県地域密着サービス協会に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいると思われる。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会や、カンファレンスなどで常に話し合い理解している。	/	/	/	カンファレンスや職員会で利用者の人格を傷つけないよう、言葉遣いには十分留意するよう話し合っている。また管理者は職員のストレスマネジメントが虐待防止につながると考えており、ストレス解消に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	カンファレンス時や職員会で検討している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会やカンファレンスなどで確認している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	利用者への影響は常に注意をはらって、その兆候が見られたら職員と話し合うようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員会、研修などで学習している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	現場の状況に合わせて点検し、話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族には日頃から身体拘束を行わないケアであることを理解してもらうように話している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	制度についてある程度理解しているが全職員には及んでいない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	家族の相談にのったり、情報を提供している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	申し出があったり、必要な時には専門機関との連携をとっている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、日誌に掲載し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	救命救急の研修を定期的を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	記録や報告書を回覧し話し合い、再発防止に努めている。必要な時は緊急に話し合いを持っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	一人一人リスクを検討し事故防止に取り組んでいる。センサーマット、や食事の形態などの対応。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのように対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば速やかに対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議に参加して意見を聞いたり日常的に個別に要望を聞いている。			○	利用者や家族は運営推進会議に参加して意見を伝えることができる。苦情があった場合は、職員で話し合って対応策を検討し、家族に返答している。また、事業所は幅広い年齢層の職員で構成され、職員は相談や意見、提案を出しやすい雰囲気であると感じており、ケアにいかせるよう努めている。管理者は職員と面談の機会を持ち、実績の評価や相談に対しての助言を行ったりしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口の説明をしたり、運営推進会議で意見を求めたり個別に要望を聞いている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	適宜行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	時々聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常に職員一人一人の意見を聞きそのように心がけている。			◎	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の目的を理解し年1回は全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	ユニット毎に職員が分担して自己評価に取り組み、ユニットリーダーがまとめ、評価結果を運営推進会議で報告している。職員は自己評価を通して、様々な角度から物事を考えられ、他のユニットの状況も知ることができたと感じている。また、日頃の実践に確信を持たたと実感する箇所もあり、自信につながっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	研修、学習の機会とし取り組み色々な場所で話し合っている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族には運営推進会議などで取り組みを報告し、意見を聞いている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員会や運営推進会で確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災マニュアルを作成している。	/	/	/	年2回、日中と夜間を想定した訓練を法人全体で実施し、地震や津波災害の際には地区で最も安全な建物だと消防署から評価され、地域住民の避難場所となる可能性もあるという認識を持っている。備蓄品は法人全体で管理している。地区の避難訓練に参加し、利用者と一緒に小学校へ避難した経験があるが、混乱や歩行介助などの面で多く課題を感じた。今後も継続して地域との連携を深め、協力・支援体制を確保できる取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中想定した訓練を年2回行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の避難訓練に参加している。消防署には定期的に来てもらって研修受けている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	自治会の避難訓練に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症を考える会で講演会を企画したり、実践報告を行った。	/	/	/	以前は地域の要請に応じて、認知症啓発の講演を行っていたが、最近はや要請が途絶えている。実践を通しての認知症理解の講演は説得力があり、そうした機会を持てるよう関係機関への働きかけや、また、地域包括支援センターから地域の実情を学ぶ機会を設けるなど、近隣住民との交流の機会が増えることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営推進会議などで相談や支援を行っている。	/	-	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	学生の受け入れに協力している。サマーキャンプなど	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括センターなどと連携をしたり、新居浜認知症を考える会に入り活動している。	/	/	○	